

■村山知義 劇作家，演出家。軍国主義化のなか，プロレタリア演劇運動の中心となるも，弾圧で転変，戦後再び活動。

むらやまともよし

田中正造直訴1901＝ 東京神田で，海軍軍医村山知二郎の長男に生まれる。母は元子。

日露戦争終・1905＝ 4歳：

父は退役後，沼津で内科医院を開業していたが，

韓国併合・・・1910＝ 9歳：この年，父が死去。

明治天皇没・1912＝11歳：

大正政変・・・1913＝12歳：開成中学校に入学。母の師であった内村鑑三の影響で，キリスト教に心酔し，

第一次大戦始1914＝13歳：母の勤める婦人之友社の{少女之友}に短編が掲載される。

21ヶ条要求・1915＝14歳：絵画が{日本水彩画会展}に入選，

本格政党内閣1918＝17歳：反戦主張して暴力振るわれるなどから，精神遍歴して，キリスト教から離れ，  
第一高等学校に入学すると，文芸部員となり，学内誌に小説を発表。

ベルサイユ条約・1919＝18歳：

大暴落・・・1920＝19歳：{子供之友}に童画を発表，以後数年続けるなど，早くから才能を発揮し，

原敬首相暗殺1921＝20歳：東京帝国大学哲学科に入学するも，中退し，

水平社結成・1922＝21歳：童話画集「ロビン・フッド」を刊行後，渡欧，ベルリンに留学，ドイツ前衛芸術を学び，画家を志して，

関東大震災・1923＝22歳：帰国，直ちに前衛美術家集団三科インデペンデントに参加，タトリンに学んだ意識的構成主義を唱え，柳瀬正夢，尾形亀之助，門脇晋郎らとMAVOを結成した。

護憲三派圧勝1924＝23歳：{子供之友}に詩や童話を発表していた簗子と結婚。\*三科造型美術協会設立に参加，MAVOは発展的解消をとげる。この間，芸術全般にわたるダダ的な運動を展開しダダ的構成主義を強く推進，大正期の前衛芸術運動の帝王とも呼ばれた。築地小劇場のG.カイザー作「朝から夜中まで」の舞台装置を担当。

治安維持法・1925＝24歳：池谷信三郎，河原崎長十郎らと{心座}を結成，しだいに社会主義に傾く。

円本時代始・1926＝25歳：佐野碩，千田是也らと{前衛座}を創立し，

共産党事件・1928＝27歳：ナップ結成に応じた左翼劇場第1回公演に自作「進水式」の演出・装置を手がけ，プロレタリア演劇運動の中心として活躍する。

世界恐慌・・・1929＝28歳：代表作に「暴力団記」がある。

海軍軍縮条約1930＝29歳：治安維持法で検挙され，保釈されるも，

満州事変・・・1931＝30歳：日本共産党に入党。日本プロレタリア文化連盟結成に尽力し，成立後，演劇同盟中央執行委員長となり，

五一五事件・1932＝31歳：再び，検挙入獄，

帝人疑獄事件1934＝33歳：\*転向して出獄。転向小説「白夜」が注目され，“新劇団大同団結”を提唱して，{新協劇団}を創立，「夜明け前」第1部で旗揚げ公演。以後，劇作はほとんど無く，

二二六事件・1936＝35歳：「夜明け前」第2部前後，多くの脚色演出，井上正夫が結成した道場など，リアリズム演劇運動を指導，

日中戦争始・1937＝36歳：大衆的長編小説「新撰組」，

第二次大戦始1939＝38歳：大衆的長編小説「天国地獄」，

大政翼賛会・1940＝39歳：検挙され，解散する。

日米開戦・・・1941＝40歳：

・・・1942＝41歳：

年金+総武装1944＝43歳：保釈，

敗戦・・・1945＝44歳：控訴審判決で執行猶予が付き，

新憲法公布・1946＝45歳：朝鮮・満州を廻るうち，<敗戦>となり，

\*{新協劇団}を再建したが，  
戦前の力はなく，分裂を経て，

多くの脚色演出のほか，

独立回復・・・1951＝50歳：

メデー事件・1952＝51歳：「死んだ海」，

55年体制始・1955＝54歳：

なべ底不況・1957＝56歳：新劇訪中使節団の一員として，中国・朝鮮を訪問。「国定忠治」などの戯曲，

美智子妃・・・1959＝58歳：劇団中芸と合同した東京芸術座の代表となった。

安保闘争・・・1960＝59歳：新劇訪中団団長，

全国総合計画1962＝61歳：長編小説「忍びの者」があり，新派，歌舞伎の演出も多い。

東京リビック1964＝63歳：

大学紛争始・1965＝64歳：日本民主主義文学同盟の結成に参加し，副議長。

いざなぎ景気1966＝65歳：再び，新劇訪中団団長，

大阪万博・・・1970＝69歳：「演劇的自叙伝」刊行を始め，

トルジョック・・・1971＝70歳：「村山知義戯曲集」を刊行。

石油ショック1973＝72歳：

角栄金脈辞任1974＝73歳：演出400回を記念して，テアトロ演劇賞。

JALハイジャック・1977＝76歳：「演劇的自叙伝」第4巻まで刊行して，没した。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，インターネット，